

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700107		
法人名	株式会社 菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花		
所在地	新潟県五泉市東石曾根5651番地		
自己評価作成日	平成25年2月10	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム菜の花は、家族とともにを重要視し、だれでも、いつでも来ていただけるホームを目指しております。ホールから菅名岳が一望し、田畑には四季折々の新鮮な野菜や田んぼが、お客様の目を喜ばしています。ゆったりとしたホールに、いつでもお客様や、地域の人たちが来れる地域交流センターを設置しております。夏には納涼祭に花火大会をし、子供たち、家族と共に、飲んだり食べたり、ひと時を過ごしました。又、お正月には地域の皆様のご協力をいただき、餅つきと楽しいひと時を過ごしております。まだ、24年3月オープンしたばかりの施設ですが、これからは行事を沢山作って、近くの保育園の園児や、地域との交流にもっともっと、力をいれていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人で五泉市内に3ヶ所目の地域密着型サービス事業所として開設した事業所である。代表者が住んでいる地域であり、地域住民と相談を重ねて開設に至った経緯があるため、地域からの理解と協力が得られている。地域住民がいつでも集える場所として事業所の一角を「地域交流センター」として開放している。災害対策についても、地区の消防団や近隣の協力を得ての避難訓練など具体的な体制の整備を進めている。

古き良き日本の旅館をイメージして造られた建物は内装に木材をふんだんに使い、ホールの大きな窓からは菅名岳の素晴らしい景観が一望できる居心地の良い空間となっていて、利用者はくつろぎながら過ごしている。

「お客様の人格を尊重し、晩年の日々が尊厳に満ちた豊かな日々になるように努めるとともに、一人一人のその人らしさを大切にし、生きる力を高める関わりを目指す事」の理念を目標に、職員教育に力を入れ、日々自分たちの実践の振り返りを積み重ねながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。家族の訪問も多く、利用者の表情や様子を記載した個別の連絡ノートを家族用に準備して情報を共有しながら、本人を共に支えるための家族との協力体制を築き、個別の支援に活かしている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、職員が常に見える場所に提示すると共に、新任研修においても理念の共有を行っている。ケアの理念に自ら考える機会をつくり、実践に繋げている。	代表者の日々の指導のもと、職員は理念および「お客様を大切に思う」ことへの理解と共有を深め、実践につなげている。新任研修や法人内の事業所合同研修で、「日々のケアをどんな思いで行っているか」を考え、理念を振り返る機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年末には、餅つきを地域の協力を頂き、皆さんで楽しませて頂きました。又、秋には近くのりんご狩りを行い、交流を図っている。	地域住民の理解と協力を得て開設した事業所であり、地域の一員として町内会にも加入している。事業所の一角に「交流センター」を設けて地域の方に開放し、いつでもお茶を飲みに来てもらえるよう働きかけている。隣家の住民からは野菜作りへの助言を得たり、臼や杵を借りて餅つきをするなど、近所づきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、認知症の理解を説明し、徘徊時や、見かけない人がいたなら、連絡して頂けるよう協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を行っている。そこでヒヤリハット報告を行い、推進委員、行政、包括職員から適切なアドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	法人内の3つの地域密着型サービス事業所合同での会議を2ヶ月に1回行っている。家族や地域の代表者、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て行い、事業所の現状や、研修の計画、実施内容等を報告している。会議で地域の集会へ参加するよう助言をもらい、消防団との協力への足がかりを得る等、会議内容が運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に事業所の状況報告を行い、市町村との連携を密にしている。又、どんなことでも相談に乗ってくれることから、安心したサービスが継続できている。	事業所運営には市のバックアップが不可欠と考え、市の担当者には日ごろから提出書類や利用者についての相談等を行い、顔の見える関係を築いている。また、市からの依頼により「介護者の集い」の見学も受け入れて、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、施錠はせず、家族や、利用者がいっでも自由に外出できるよう、心配りを図っている。当初からオープンにしているため、家族の出入り多いと思う。日常生活においても身体拘束は行っていない。	防犯上夜8時～朝6時までは施錠をしているが、日中は施錠をしていない。職員は外部研修へ交代で出席し、内部研修で伝達講習を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、外へ出ようとする利用者に対してはその希望を受け止めたうえで外出を支援したり、職員の言葉遣いが拘束につながらないようにも留意している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員代表者が研修に参加し、研修の回覧を全職員が周知、内部研修にも報告し全職員が虐待防止に努めている。	職員が外部研修へ交代で参加し、内部研修でも伝達講習を行って、虐待の具体的な行為を理解している。代表者や管理者は職員のストレスが利用者へ影響しないよう、何でも言い合える関係を築くよう努めている。また、対応が難しい状況の場合は複数の職員で当該利用者に対応する等、負担が偏らないよう職員配置にも留意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は管理者研修、認知症実践者研修等の学ぶ研修に参加し、権利擁護等について、学ぶとともに、全員職員へ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、十分な説明を行っている。状態悪化については、他の施設利用の説明も合わせて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設けている。又、家族の来所時に、日々の記録を見せて様子を知らせている。又、家族からの要望があれば担当者が全員に周知している。	家族には「いつでもどうぞ」と声をかけ、事業所に多く足を運んでもらえるよう働きかけている。利用者の表情や様子を記載した個別の連絡ノートを家族用に準備して家族にも自由に記載してもらい、意見や要望を引き出せるようにしている。利用者からは日々の関わりの中で引き出すよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の内部研修、さらに役付き者等との会議を行っている。そこで意見や今後の運営に関する提案を行い、さらに良くなるようサービスを充実している。	日々の申し送りのほか、毎月1回、全職員が出席する「内部研修」の折に職員間で話し合いをする機会を設けている。また、一日の業務の中で良かったこと・悪かったこと等を毎日「報告書」に記載する仕組みがあり、職員の気づきや意見の収集に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社は、24年度2か所の事業拡大した。おかげさまで少しずつ給与水準や、賞与に反映できるようになってきている。今後も職員の質を上げると同時に、やりがいのある職場に水準をあげたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を行い、当社の理念に沿った介護を充実し、又3事業所の差のないサービスの充実を図るため一人一人の力量を把握し、事業所ごとの移動も行っている。内部研修も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	五泉市管内のグループホームにおいて、管理者の交流を図るため、年に2回同業者の意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず本人に慣れていただくことを最重点において、認知症の行動を把握し、本人の要望に耳を傾け、家族には、聞き取りを行い、今までの暮らしぶりを反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも、来所は可能としているため、日中夜間問わず家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思い、ご本人の思いを大切に、「施設に入れられた」こんな思いを持たせない様な関わりで、時々家に帰ったりして頂けるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは、「ありがとう」を添えて、一緒に行っている。洗濯たたみ、ちゃわん洗い、部屋の掃除など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時は家族対応でお願いしている。そのため家族も本人を支えている関係を築いている。家族もいつでも電話などで日々の様子を知ることができる。	定期的受診の付添いのほか、墓参りや、親族・知人との交流などに家族の協力を依頼している。また、入浴を好まない利用者には家族から入浴を勧めてもらったり、季節ごとにタンス内の衣替えをお願いするなど、家族にも担ってもらう役割を作っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々家族のほうで、昔一緒に食事をしたところに連れて行き、昔の関係を大事にしてもらっている。家族も食事に連れて行くことで、親との関係を大事にしている。	家族の協力を得て、馴染みの理美容院の利用や墓参り等を継続している。顔なじみの知人・親族の帰省に合わせての外出や外泊の支援も家族の協力のもと行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんど何も言わないでも、ホールに出ていることが多い。又週に1回くらいは、利用者と社長との歓談がより楽しみの日になっているようだ。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は、何度かお見舞いに行くなどしている。家族の方で、そのまま継続での要望があるため、籍は残している。退院見込みのない人に限り、いつでも相談は受けますの支援は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夕方になると、家に帰らなければならないと、外に出たがる利用者には、車で外出を図るなど、自由に本人の希望に叶えている。	職員は日々の関わりのなかで一人ひとりの思いや希望を聞き取り、得られた情報を計画作成担当者が集約しているが、利用者の新たな情報を一定のアセスメントシートに追記したり、職員間で話し合いながら一人ひとりの思いや意向を検討するまでには至っていない。	センター方式等のアセスメントシートの中から、取り組みやすいシートに焦点を絞って情報整理に活用してはどうか。アセスメントや意向把握の目的を明確にし、本人本位の視点で、さらに思いや意向を把握できる仕組みづくりに期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との交流が一番大事にしている。家族の来所時はホールでみんなで交流を図られるため、自分の家族外でも楽しみに待って居る。	入居時、家族やそれまで利用していたサービス事業所等から、本人のこれまでの生活の様子について聞き取りをしている。入居後も、本人・家族への聞き取りを継続し、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調不良時は、個室に横になってもらう等、その人その人の心身の状態に合わせた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、家族に説明し、要望等があれば、意見を出してもらおう等お話をしているが、家族の意見はあまり出てこない。更新調査において、家族の意見など聞かれるので、それをプランの中に反映している。	本人や家族の要望、職員の情報をもとに、計画作成担当者がMDSアセスメント様式を利用して課題分析を実施し、それに基づいて介護計画を作成している。1ヶ月に1回独自のモニタリング様式を活用して評価を行い、目標期間や状態変化に応じて見直しを行っている。	介護計画作成に際しては、本人・家族や職員が参加しての話し合いの場を設定し、そこでアセスメントや意見交換が実施するなど、より本人や家族の要望等を引き出し個別具体的な介護計画の作成につなげる仕組みづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態については、個々のファイルに記入し、送りや、朝の朝礼などで情報を共有している。介護計画にも盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時は家族対応が不可能の家族に対して、当社での対応を行っている。家族に負担がかからない程度の本人とのふれあいのできる取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一年に何度か外出を試み楽しみの継続できることを考えている。施設内においてはぬりえや、行事を大切に、舞踊ボランティアの協力もいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は大切に、主治医、事業所との関係を密にしている。往診も行ってもらっている。	入居前からのかかりつけ医への受診を継続し、家族が遠方の場合以外は、家族による付添いをお願いしている。受診前に家族に本人の状況を伝え、受診後は家族から結果を聞き、情報を共有している。急変時はかかりつけ医に往診を依頼し、緊急の場合は事業所の協力医に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々身体状況には注意を払っているが、時々隣接施設の看護師に情報を入れ相談や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いや、面会に行き、認知症の悪化にならないようかわりを持っている。又、病院ケースワーカーとの情報や相談など退院に向けた話し合いも、家族と共にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、終末期に向けた方針や共有が必要となると思う。現在はまだ家族との話し合いは行っていない。	入居時に、重度化した場合は事業所としてできることに限りがあることを家族に伝えている。体調を崩して今後の事業所での生活が危惧されたケースがあり、家族と話し合いの機会を持ち、他施設への移行となった。平成25年度の春には看護師の採用を予定しており、今後、事業所としての方針を再度検討していく予定である。	事業所の方針について、また、利用者個別の支援のあり方について、本人・家族、事業所や主治医等の関係者間で継続的に話し合い、共有して、本人にとってより良い支援につながるよう今後の取り組みを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDにおける救急訓練は行っているが、使用する事態は起きていない。自己発生時における対応マニュアルは備えてある。消防署が近くにあるためすぐ対応してくれる。	事業所内にAEDを設置するとともに、年1回救命救急法の訓練を行っている。事故発生時のマニュアルも整備し、隣接事業所の看護師から初期対応についての指示を受けたり、処置が必要な場合は対応してもらえる体制がある。事故の未然防止についての研修も繰り返し行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。又水害、災害等については、今後設置予定となっている防災行政無線が当社の敷地に設置予定となって居る。又、地域の協力要請は行っている。	近くに消防署があり、すぐに駆けつけてもらえる環境にある。また、平成25年春から行政の防災無線が事業所の敷地内に設置されることとなっている。避難訓練は年2回定期的に行い、地域の消防団との協力体制についても運営推進会議を通じて足がかりを得たところである。	地域の消防団との協力体制について、連絡体制の整備や避難訓練への参加など具体的な形にし、有事に備えていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人さんには特に注意をし、新人教育に力を注いでいる。	利用者への言葉かけや対応については特に配慮し、新人研修だけでなく、日々の支援場面においても代表者から指導したり職員同士で注意し合っている。また、記録は利用者の前では行わないこと、プライバシーに配慮したさりげないケアを行うこと等を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に食事面において、何が食べたいか尋ねて、買い物を行っている。春には隣の畑に行き、作物を取るなどし、昔してきたことを思い出させるようなかわりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などその日に入りたいくない人には、翌日とか、午後からにするとか本人の希望に沿って行っているが、入りたくなるようなかわりも大切なことも、職員に教育の一環として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけ時は、服を選ぶとか、お手伝いを行い、おしゃれのできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近隣の農家の野菜が運ばれてくるため、利用者は新鮮な野菜を見て喜んでい。又春になると畑に行きいちごがりをたのしんでいる。食事の盛り付けなどは、手伝ってもらっている。	天候が悪くなければ毎日利用者と食材の買い物に出かけ、何が食べたいかを聞いている。近隣の農家の方から野菜を、町内の豆腐屋から週1回豆腐を配達してもらい、地元の食材・旬の食材と家庭的な器を用いて、目でも食事を楽しめる工夫をしている。また、皮むきやお茶出し、配膳等は利用者が役割として担い、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排尿チェックや、トイレ回数など、小まめなチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケア、歯磨きは日々行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを継続し、その中でその人一人一人の排泄状況が見えてくる。そこで早めの排泄誘導等を見極め、受診に向けたサービスを行っている。	排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりに対して自立に向けた排泄支援と体調管理を行っている。排泄の失敗がないように、職員は利用者一人ひとりの排泄のサインや仕草をとらえ、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	魚介類、野菜を多く摂取するようにしている。便秘気味の人には、運動もとり入れ便秘改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているものの、自分の入りたい時間になるべく近づけたサービスを行っている。 又、入浴したくなるような取り組みも大事と、研修課題に盛り込んでいる。	基本的には月・水・金曜日の午後2～5時としているが、長湯が好みの方は午前中から入浴したり、回数も利用者の要望に合わせて臨機応変に対応している。柚子湯や菖蒲湯等の変わり湯も楽しんでもらっている。入浴を好まない方には、家族の協力も得ながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの人が、ホールに出て過ごしているが、新聞を一人で静かに読まれている方は、部屋で過ごすなど自由に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年に何回か外出を行っている。当社は個別活動ではなく、全員が楽しめるよう心掛けている。家族との触れ合いで、今まで行っていた場所、楽しみを継続してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年末地域の方々の協力でもちつきを行った。これからも今後の課題として、いろいろなことを計画したいと思っている。	日課となっている散歩コースを歩いたり、天気のいい日には近くの公園へお弁当を持って出かけた。園芸センターやりんご狩り等の外出行事も年6回ほど行っている。個別の希望による外出は家族の協力を得ながら行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暮れにお歳暮を頂き、新年にお礼の年賀状をお送りした。認知症のためすぐ忘れてしまうが、必要時には、電話もかけて安心できる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は床暖房設置で、外は田んぼが一面と広がり環境的には良いと思う。又、ホール内は広々とした空間を自由に使っている。	床や天井、1枚板の大きな木のテーブルなど木材をふんだんに取り入れており、温もりが感じられる。天井が高く、大きな窓からは菅名岳連峰が一望でき、開放感がある。観葉植物や生花が随所に飾っており、居心地の良い空間となっている。感染症対策として空気洗浄機も活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内はテーブル、ソファ、椅子、畳を自由に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	不足部分は家族が家から持ってくるなどして、部屋の環境を整えている。	フローリングの洋室と畳の和室がある。ベッドやタンスは事業所で用意しているが、好みのものや馴染みのものの持ち込みを働きかけ、カーペットやテーブル、椅子、時計等が持ち込まれている。家族と話し合いながら、本人が過ごしやすい居室環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の戸に名前を付けたり、認知の改善には、自分の名前を忘れない訓練や、茶碗の出し入れ、食後の食器洗いなどできることを率先して行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			